

小暮報告の記録

仙台市博物館市史編さん室 倉橋 真紀

司会（加藤聖文）

午前の全体会1から全体会2まで一つの構成となっているため、梅原報告・煙山報告も踏まえて質問を受け付ける。

福島幸宏（京都府立総合資料館）

専門職員の養成に国立公文書館の研修と、アーカイブス系のアーカイブスカレッジが上げられているが、全史料協が上がっていないのは問題なのではないかというのが感想である。第1分科会の富田報告でも議論があったが、色々な形で支援できればと考えているし、今後検討していくべきことではないかと思う。

また、夏に行われた調査のようだが、今後については話をしていないのか。例えば資料65頁の間9「14年度以降に整理作業を終えた明治期以降の行政文書は、今後保管する予定ですか」の答えで「いいえ」が三つもある。廃棄するのかという疑問がでるが、こうしたことについて福島県としては、県内市町村に対する助言や支援策についてどのように考えているのか。

報告者

財団法人福島県文化振興事業団は、県が設置した福島県歴史資料館の運営管理を任されている。これは行政機関ではなく、各施設に出向いて指導的なことは行えないのが基本的な立場となっている。ただ、こうしたことに対して質問があれば返答するし、何か参考になるようなことがあれば情報提供もしていきたい。

新井浩文（埼玉県立文書館）

アンケートの内容だが、資料65頁の間8「明治期以降の旧村役場で作成された行政文書について、平成14年度以降に収集・整理作業を行いましたか」に対して「はい」が23.1%ある。これは自治体史などを編さん中のところなのか、終了しているところなのか。非常に重要な点なので伺いたい。

また、収集しているところは、実際それを資料として、例えば自治体史の資料編を編さんするときに利用しているのか否か。要するに資料を自治体史編さんのために収集しており、それを継続しているのか、終了しても依然として収集しているのか。終了しても収集

している場合は収集意図が変わるので、収集規定も変更になっているはずだと思うが、そういったことはわかるのか。

報告者

問8に関しては平成14年度以降に自治体史編さんに伴う資料として収集したか、という意図の質問なので、それ以外のものは入っていない。平成13年度以前のものについて収集したかどうかという意図の質問でもなかった。

収集した行政文書について自治体史の資料編で利用しているかどうかについては、そこまで詳しい質問ではなかったが、参考になっているものも含まれていると思う。

新井浩文（埼玉県立文書館）

今回のアンケートを通して、合併史を新たに始めたところがあるかどうかわかるか。

報告者

市町村合併の経過を示したものということについては、こちらでは確認していない。

石川（石川県）

全体会を通して全史料協に対して意見・要望がある。利用者の立場で、聞いていると、違和感とマージナルな感情を持たざるを得ない。

地方公文書館については予算が非常に少ないので設置できないというのが大きな理由だといわれている。石川県も同じで、二十数年來設置されない理由は予算不足であると答弁しているが、それに対する反論をいろいろと考えている。

利用者が少なくとも公文書館の提供する様々なサービスに対して、苦情があったり、提案があったりと思う。それをどのように処理して改革しているのか。要するにサービスに対するマネジメントについて、どこの公文書館でも構わないので、そうしたことを全体で交流し、討論するような場を設けると有益なのではないだろうか。

また、図書館の場合、図書館応援団、サポーターというのが弱いながらもある。公文書館・文書館応援団のようなものへの取り組

みについても聞きたいと思っていた。アメリカなどの自治体図書館のホームページを見ると、サポートについていろいろ書いてあるが、寄付もしてほしいと書いてある。

“support”ではなく“contribute”というボタンがあり、そこから寄付ができるようになっていることがあるようだ。アメリカでは公文書館といっても財団で、苦しい経営を行っている場合もあり、本当にささやかな費用でも献金してくれるという報告も聞いている。

“Contributor”としての自分の役割も考えていかないといけないし、考えてほしい。

今の議論にそぐわないかもしれないが述べさせていただいた。

福島幸宏（京都市立総合資料館）

今のお話は非常に重要な視点だと思う。これだけ使える、これだけできるということを議員の方や市民の方に説明ができていないからこそ利用者が少ないのであり、改善すべきだと思う。目録は完全にウェブで公開するか、情報を常に更新していくといった、地域の状況に合わせたいろいろな努力をしていくことがなければ、現状では文化施設として位置づけられている公文書館・資料館はすぐにつぶれる可能性がある。そうしたことを全史料協でも今後議論できるようにしたいし、みなさんと協力していきたい。